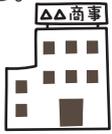
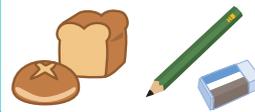


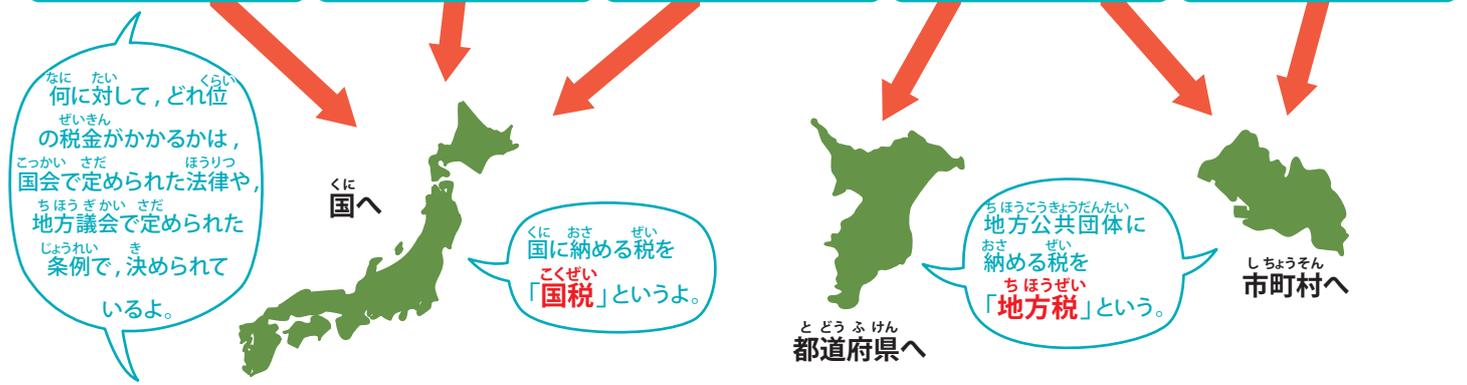
## 税金のしくみ

国や地方公共団体は、人々の暮らしをより豊かなものにするために、様々な事業を行います。それらの事業には国民が納める税金が使われます。税金について学習しましょう。

### 税金の種類

お店で買い物をした時に納める消費税や、仕事をして収入を得た時に納める所得税など、税金には様々な種類があります。また、税金の種類によって、国に納めるもの、都道府県に納めるもの、市町村に納めるものがあります。

<b>所得税</b> 会社に勤めたり、商売をしたりして、個人が得た所得にかかる。	<b>法人税</b> 会社が得た所得にかかる。 	<b>消費税</b> 商品やサービスを買った時にかかる。 	<b>住民税</b> 住んでいる都道府県と、市町村に納める。 都道府県民税 市町村民税	<b>固定資産税</b> 所有している、土地や建物にかかる。 
---	---	--	--	--



- その他の税(例)
- 相続税…財産を相続した時にかかる。
  - たばこ税…たばこを買った時にかかる。
  - 揮発油税…ガソリンなどを買った時にかかる。
  - 関税…品物が国外から輸入される時にかかる。
  - 入湯税…温泉などの施設を利用する時にかかる。
  - 酒税…酒類(アルコール分1%以上のもの)を買った時にかかる。
  - 自動車税…所有している車にかかる税。都道府県に納める。
  - 都市計画税…市街化区域内に所有している、土地と建物にかかる。

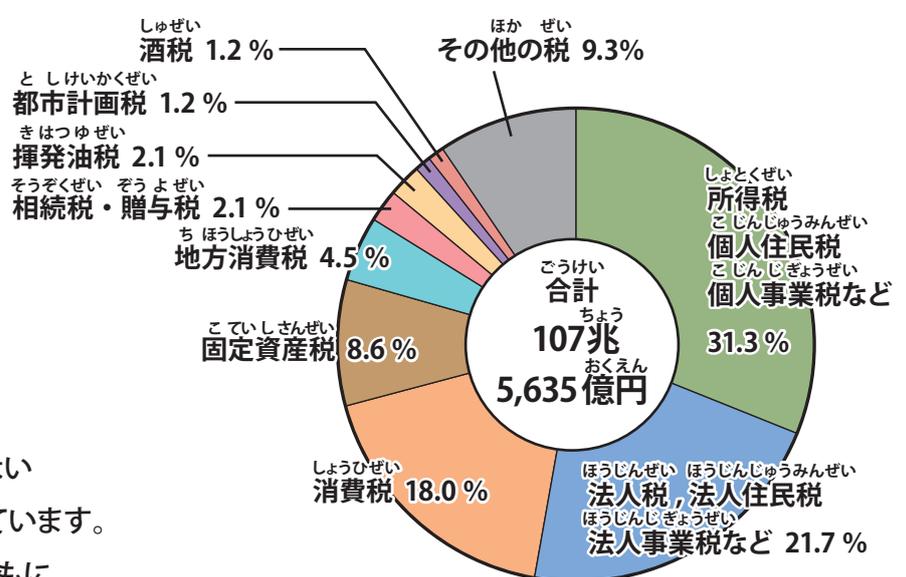
### 国税・地方税の収の内訳

国や地方公共団体に納められる税金の総額は、一年間で約108兆円(令和元年度予算)です。

このようにして集められた税金は、警察や消防、道路や水道、医療や教育などに関わる公共的な仕事のために使われます。税金は、みんなで社会を支えるための会費のようなものなのです。

日本国憲法では国民が守らなくてはならない義務として、「税金を納める義務」を定めています。

これは、「働く義務」、「教育の義務」とともに、国民の三大義務の一つとされています。



財務省「税収の内訳(令和元年度予算)」より

# 税金の使い道

わたし達が健康で文化的な生活をおくるために、税金は様々なことに使われています。もし、税金がなければ、生活に必要なたくさんの施設やサービスもなくなったり、有料になったりしてしまいます。税金がどんなことに使われているか見てみましょう。

もし、これらの施設がないと、どうなってしまうかな？ 想像してみよう！

公共施設や道路などの整備・管理

上下水道、清掃工場、保健所、裁判所、法務局、税務署、空港など、他にもたくさんの施設が税金で作られています。

安全な暮らしを守るために

警察官・パトカー、消防官・消防車、救急隊員・救急車

健康を守るために

健康診断、予防注射、医療費の一部

きれいなまちづくりのために

ゴミの回収と処理

国の防衛のために

自衛隊の設備・運営

災害救助のために

地震や大雨被害などからの救助

お年寄りや障がいのある人を支援するために

年金、介護サービス

海外の困っている人達を援助するために

貧困や飢餓に苦しむ人達を助けるため、税金を使って開発途上国にお金を貸したり、ダムや道路、病院を作るなどの援助をしています。このような活動を「政府開発援助 (ODA)」といいます。

誰もが平等に教育を受けられるように

教科書、校舎、机・椅子・その他の備品など

新しい研究や開発

将来、わたし達の社会に役立つために、税金を使って、宇宙開発や科学技術、医療などの新しい研究や開発が行われています。

